

【 参考資料2 】

「まちぐるみで認知症ケア」

宇都宮市の認知症高齢者等対策(案)



宇 都 宮 市
平成 2 3 年 月

はじめに

宇都宮市では、平成21年3月に「にっこり安心プラン（第5次高齢者保健福祉計画及び第4期介護保険事業計画）」（計画期間：平成21～23年度）を策定しました。

この「にっこり安心プラン」では、高齢化の進展に伴い、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者対策をリーディングプロジェクトとして位置づけ、認知症サポーター養成講座や認知症予防講演会を開催するほか、栃木県が実施する認知症地域支援体制構築等推進事業や、認知症の実態、介護者の意識・生活状況、若年層の認知症に対する意識、医療機関等における認知症対応の状況などを把握するためのアンケート調査などに取り組んできました。

このような中、今後より一層、関係機関と連携を図りながら認知症対策に取り組むため、平成21年7月24日に、宇都宮市社会福祉審議会の高齢者福祉専門分科会及び障害者福祉専門分科会の委員や、認知症に関する有識者、市民の代表によって構成される、「宇都宮市認知症高齢者等対策懇談会」を設置し、宇都宮市の認知症高齢者等対策を進める上で必要な施策・事業について検討を重ね、具体的な施策・事業の展開方法について以下のとおりまとめました。

最後に、本市の認知症高齢者等対策の検討にあたり、様々な視点から御審議いただきました宇都宮市認知症高齢者等対策懇談会委員の皆様に深く感謝申し上げます。

平成23年 月

－ 目 次 －

○ はじめに.....	1
I 宇都宮市の認知症高齢者等対策について.....	5
1 策定の目的.....	5
2 対策の位置づけ.....	5
II 認知症について.....	6
1 「痴呆」から「認知症」へ.....	6
2 認知症とは.....	6
3 認知症の症状を発症させる原因疾患.....	6
(1) 脳血管性認知症.....	6
(2) アルツハイマー型認知症.....	6
(3) その他、認知症の症状を発症させる疾患.....	6
4 認知症の症状.....	7
5 認知症に見られる症状の例.....	8
(1) 中核症状.....	8
(2) 行動・心理症状（B P S D）.....	9
III 認知症高齢者等を取り巻く環境の動向.....	10
1 社会環境の変化.....	10
(1) 高齢者人口と高齢化率の推移.....	10
(2) 要介護認定者数の現状.....	11
(3) 認知症高齢者の見通し.....	12
2 アンケート調査に基づく認知症に関する状況.....	13
(1) アンケート調査の概要.....	13
(2) 主な調査結果.....	14
IV 認知症高齢者等対策の推進に向けた理念の明確化.....	22
1 本市が果たすべき使命.....	22
2 将来像.....	22
V 認知症高齢者等対策における課題の整理.....	23

1	認知症の正しい理解に向けた周知啓発の推進	23
2	認知症予防の推進	23
3	早期発見・早期診断のための取組の構築や医療・介護・福祉が連携した認知症ケア体制の充実	24
	(1) 早期発見・早期診断のための取組の構築	24
	(2) 医療・介護・福祉が連携した認知症ケア体制の充実	24
4	介護者への支援	25
5	認知症の人やその家族が暮らしやすい地域づくりの推進	25
6	高齢者の権利擁護の促進	25
VI	認知症高齢者等対策について	26
1	認知症の正しい理解に向けた周知啓発の推進	26
	(1) 認知症啓発月間などの導入による、全市的な啓発事業の推進（新規）	26
	(2) 認知症サポーター養成講座の効果的な展開（拡充）	26
2	認知症予防の推進	27
	(1) 介護予防（認知症予防）事業の推進	27
	ア 介護予防教室（はつらつ教室）の充実（継続）	27
	イ 通所型介護予防事業（げんき応援教室）の実施（拡充）	27
	ウ 訪問型介護予防事業の実施（継続）	28
	(2) 心とからだの健康づくりの推進	28
	ア 介護予防講演会の実施（継続）	28
	イ 健康教育・健康相談の実施（継続）	28
	ウ 特定健康診査（健康診査）の実施（継続）	28
	エ 生きがいづくりの支援（継続）	29
3	早期発見・早期診断のための取組の構築や医療・介護・福祉が連携したケア体制の充実	30
	(1) 早期発見・早期診断のための取組の構築（新規）	30
	(2) 医療・介護・福祉が連携したケア体制の充実（拡充）	30
	(3) 認知症ケアの質的向上（拡充）	31
	(4) 介護サービス提供基盤の整備推進（継続）	31
4	介護者への支援	32
	(1) 認知症の人やその家族の生活状況に応じた情報提供の充実（拡充）	32
	(2) 家族介護教室の充実（拡充）	32
	(3) 認知症の人を介護する家族のつどいや交流会の開催（拡充）	32
	(4) 認知症の人を介護する家族への支援の充実（継続）	33
5	認知症の人やその家族が暮らしやすい地域づくりの推進	34

(1) 認知症の人やその家族を支える地域ネットワークの充実（拡充）	34
(2) 地域包括支援センターの利用促進（継続）	35
6 高齢者の権利擁護の促進	35
(1) 成年後見制度の活用と周知・理解の促進（継続）	35
(2) 権利擁護センター「あすてらす・うつのみや」の利用促進（継続）	36
(3) 高齢者への虐待防止に向けた取組の推進（継続）	36
VII 対策の着実な推進に向けて	38
1 関係機関との連携	38
2 対策の進行管理	38

I 宇都宮市の認知症高齢者等対策について

1 策定の目的

高齢化の進展に伴い、認知症高齢者の増加が見込まれており、認知症対策は喫緊の課題といえます。

このため、認知症の人やその家族が、住み慣れた家庭や地域で安心して暮らすことができるよう、必要な取組を明らかにするものです。

2 対策の位置づけ

「にっこり安心プラン（第5次宇都宮市高齢者保健福祉計画・第4期宇都宮市介護保健事業計画）」のリーディングプロジェクトに位置づけた認知症高齢者対策の実効性を高めるため、具体的な施策・事業を取りまとめたものです。

《認知症高齢者等対策の位置づけ》



Ⅱ 認知症について

1 「痴呆」から「認知症」へ

厚生労働省の『「痴呆」に替わる用語に関する検討会』において、「痴呆」という用語が侮蔑的な意味合いを含んでいることや、症状を正確に表していないことなどから、用語による誤解や偏見の解消を図る一環から検討をおこない、2004年12月に「痴呆」に替わる呼称として「認知症」が最適とする報告書を取りまとめました。この報告書を受けて同省は「痴呆」から「認知症」へ用語を変更し、自治体においても「認知症」が行政用語として使用されることになりました。

2 認知症とは

脳血管疾患、アルツハイマー病その他の要因に基づく脳の器質的な変化により日常生活に支障が生じる程度にまで記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態。（介護保険法第8条第16項）

3 認知症の症状を発症させる原因疾患

(1) 脳血管性認知症

- ・ 脳血管障害が発生した脳の領域により出現する。
- ・ 症状はさまざまだが、記憶障害、言語障害等が出やすく、階段状に進行することが多い。

(2) アルツハイマー型認知症

- ・ 中核症状として記憶障害（もの忘れ）が必ずあり、多くの場合、記憶障害から始まる。
- ・ 発症及び進行は緩やかで、記憶障害を含む複数の認知機能が持続的に低下し、段取りを立てられない、気候にあった服を選べない、薬の管理ができない等、日常生活において、以前からできていたことが、できなくなってしまう。
- ・ 周辺症状では、妄想、徘徊、せん妄等が多い。

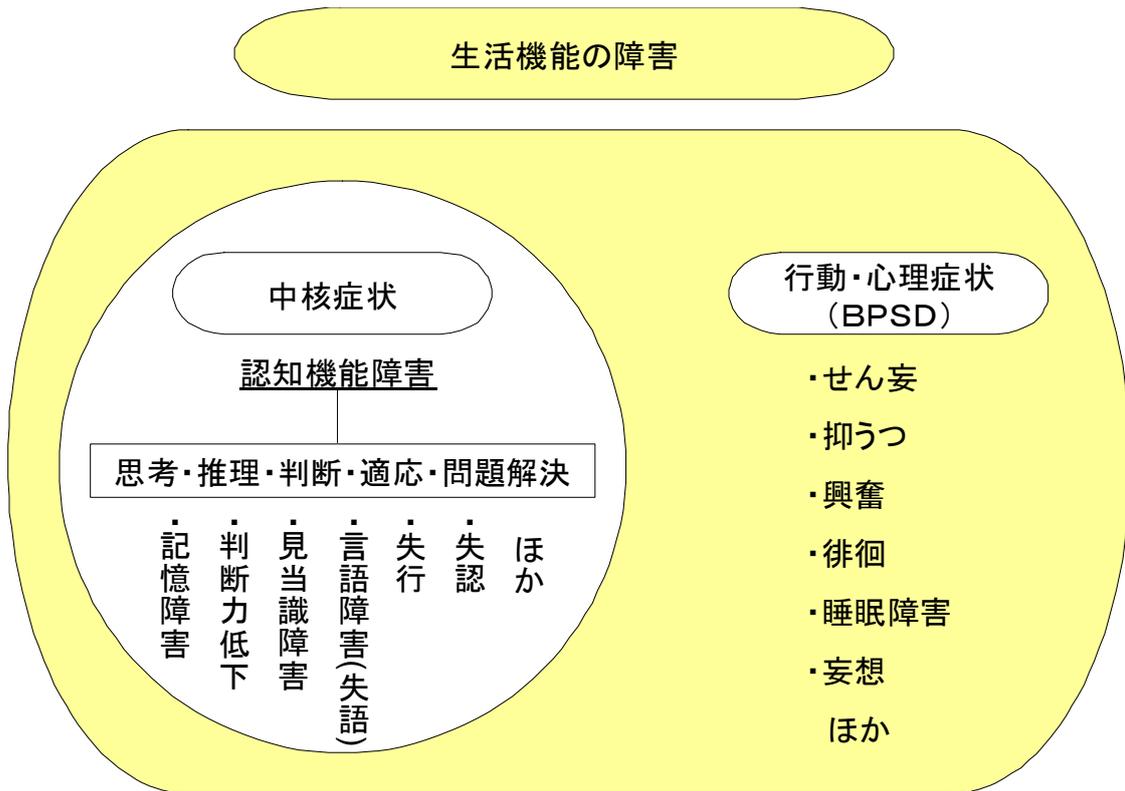
(3) その他、認知症の症状を発症させる疾患

- ・ レビー小体型認知症
- ・ 前頭側頭型認知症（ピック病他） など

4 認知症の症状

認知症の症状は、「中核症状」と「行動・心理症状（BPSD）」の大きく2つに分けられます。中核症状とは、脳の細胞が死んでしまうことによって直接起こる症状のことをいい、「行動・心理症状」は、本人の性格や人間関係・生活環境、心の状態などによって出てくる症状をいいます。

(参考) 認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）



* 出典：第1回認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト資料(厚生労働省)

5 認知症に見られる症状の例

(1) 中核症状

ア 記憶障害 「ごはんはまだですか？」

脳は、目や耳などから入るたくさんの情報のうち、必要なものや関心があるものは一時的に蓄え、大事な情報は忘れないように長期間保存するようにできています。

しかし、脳の一部の細胞が壊れ、そのはたらきを失うと、既にごはんを食べたのにも関わらずそのことを忘れてしまい「ごはんはまだですか？」と聞いてくることがあります。



イ 見当識障害 「どちらさまですか？」

いまが「いつ」で、自分が「どこ」にいるのか、目の前にいる人が「だれ」なのかを理解する脳のはたらきが著しく低下しあらわれる症状を「見当識障害」といいます。このため、認知症が進むと、夫や妻、子どもに向かって「どちらさまですか？」とたずねたりします。



(2) 行動・心理症状（BPSD）

ア 徘徊 「家に帰る」

認知症になると、場所や状況がわからなくなり、道に迷ってしまうことがあります。なぜ迷ってしまうのか、認知症が原因であると考えて対応すれば防ぐことはできます。

また、夕暮れ時などに「家に帰る」と言って家族を驚かすこともあります。「ここが家だよ！」とさとするのではなく、いったん本人の気持ちを受け入れ、一緒に家の周りを散歩するなどすれば、気持ちが落ち着くこともあります。



イ 妄想 「財布を盗まれた」

物忘れがひどくなり、大事なものをしまった場所を忘れ、家族の誰かが盗ったと思い込んで怒ったりします。大事なものが見つからなくなることは、とても不安です。「またしまい忘れたんでしょう」などと言わずに、認知症の人が自分で見つけられるように、いっしょに探して手助けしてあげるといった対応が望めます。



Ⅲ 認知症高齢者等を取り巻く環境の動向

1 社会環境の変化

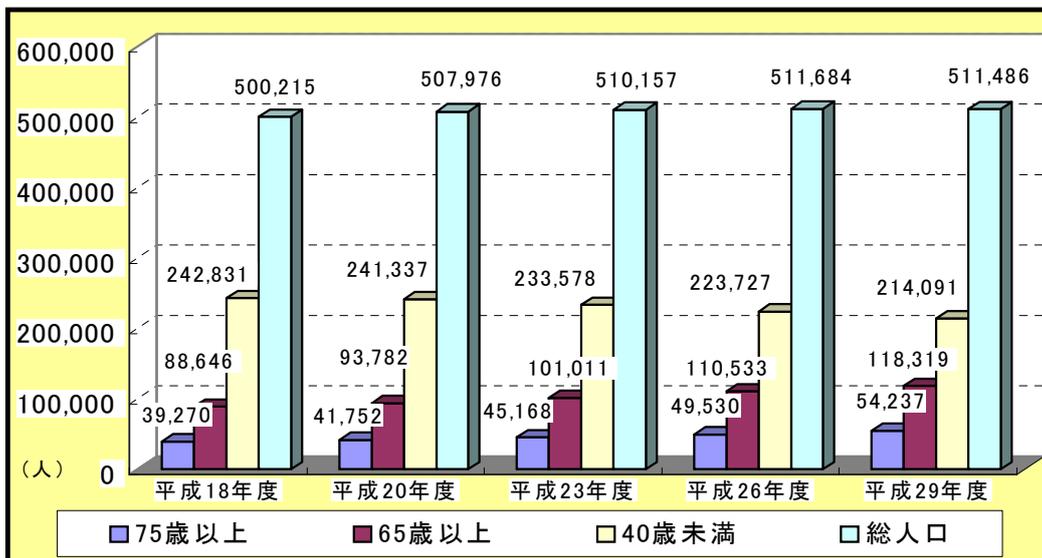
(1) 高齢者人口と高齢化率の推移

本市の総人口は、平成20年度は、507,976人ですが、将来人口については、国や県が既に減少に転じているなか、本市では今後も緩やかに増加を続け、平成23年度には、510,157人となり、2,181人(0.4%)増加すると見込まれます。

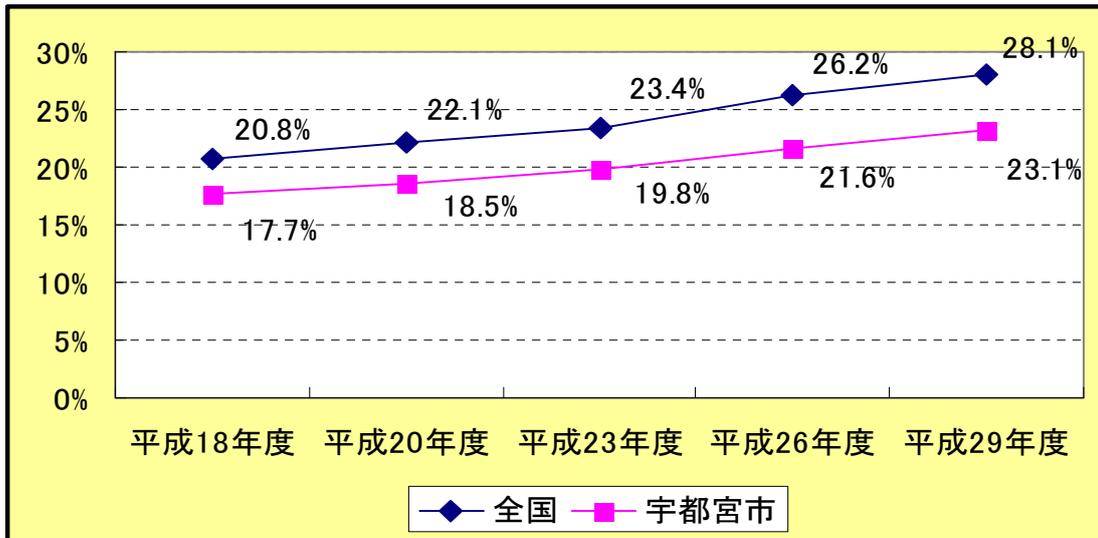
しかし、40歳未満の人口は、平成20年度は、241,337人ですが、平成23年度には、233,578人となり、7,759人(3.2%)減少すると見込まれます。

一方、本市の65歳以上の高齢者人口は、平成20年度は、93,782人ですが、平成23年度には101,011人となり、7,229人(7.7%)増加すると見込まれます。特に、75歳以上の高齢者については、平成20年度は、41,752人であったものが、平成23年度には45,168人となり、3,416人(8.2%)増加すると見込まれます。

ア 総人口と年齢別人口の推移

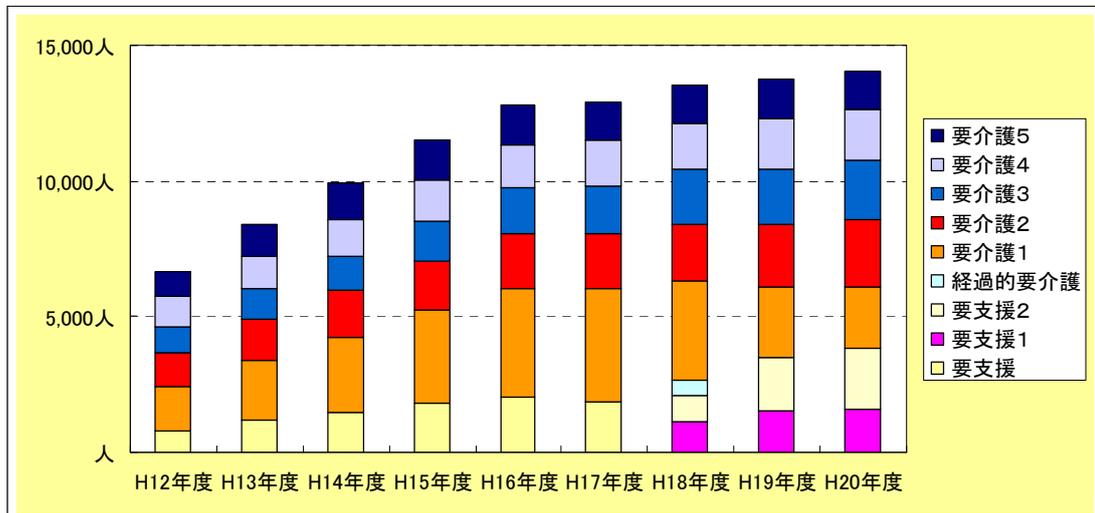


イ 高齢化率の推移



平成20年度の本市の高齢化率（総人口に占める65歳以上の高齢者人口の割合）は、18.5%と全国（22.1%）に比べ3.6ポイント低く、また、平成23年度には、19.8%となり、現在より1.3ポイント上昇し、5人に1人が高齢者となることが見込まれます。

(2) 要介護認定者数の現状



本市の要支援・要介護認定者数は、介護保険制度が始まった平成12年度は6,641人でしたが、年々増加し続け、平成20年度には14,013人となっています。

(3) 認知症高齢者の見通し

ア 国の見通し

- ・ 要介護認定者における認知症高齢者の将来推計 (単位：万人)

H12	H17	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52	H57
149	169	208	250	289	323	353	376	385	378

(出典：「2015年の高齢者介護（平成15年厚労省）」)

国の推計では、要介護認定者における認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)が、平成17年(2005)には169万人が認知症とみなされ、平成27年(2015)には、250万人まで増加すると見込んでいます。

イ 宇都宮市の見通し

- ・ 国の推計方法による認知症高齢者数 (推計値)

平成17年度：約6,500人 ⇒ 平成27年度：約10,000人

本市については、平成17年(2005)には6,500人が認知症とみなされ、平成27年(2015)には、1万人まで増加すると見込んでいます。

2 アンケート調査に基づく認知症に関する状況

本市では、認知症高齢者等対策の検討及び認知症地域支援体制構築等推進事業を進めるにあたり、認知症の実態、介護者の意識・生活状況、若年層の認知症に対する意識、医療機関等における認知症対応の状況などを把握し、本市の認知症対策の課題の整理に向けた参考資料とするため、次の調査を実施しました。

(1) アンケート調査の概要

ア 調査対象及び回収率

調査名称・対象者	対象者数等	回収件数	回収率
高齢者のいる世帯アンケート調査 認知症地域支援体制構築等推進事業の 市内3モデル地区(西・桜地区, 古里地 区, 横川地区)在住の65歳以上高齢者 がいる世帯の世帯主	2,000世帯	978世帯	48.9%
認知症に関する市民意識アンケート調査 市内在住の20歳以上64歳以下の市民	2,000人	896人	44.8%
認知症の人と介護者の会アンケート調査 市内在住の 栃木県認知症の人と介護者の会会員	79人	43人	54.4%
医療機関アンケート調査 市内の病院・診療所(小児科単科除く)	401機関	196機関	48.9%
歯科診療機関アンケート調査 市内の歯科診療機関	297機関	200機関	67.3%
介護支援事業者アンケート調査 市内の介護支援事業者	111事業者	76事業者	68.5%
地域包括支援センターアンケート調査 市内の地域包括支援センター	25センター	25センター	100.0%
			49.1%

イ 調査方法 郵送による配布・回収

ウ 調査期間 平成22年1月22日(金)から2月4日(木)まで

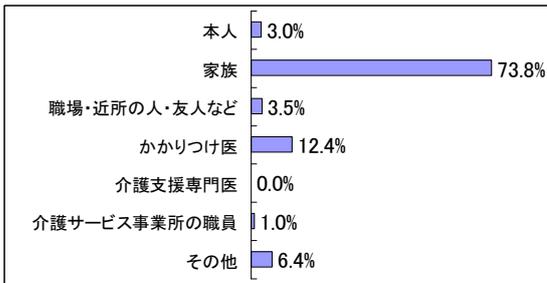
(2) 主な調査結果

ア 認知症の気づき

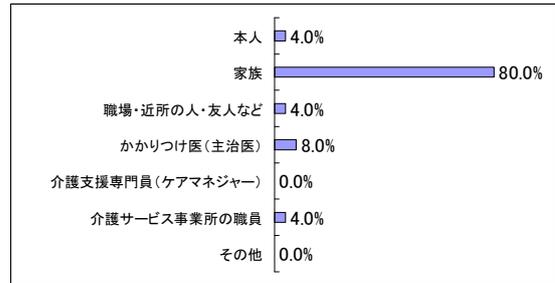
- ・ 最初に気づくのは家族が多い

○ 認知症のご本人の変化に最初に気づいた人

[高齢者のいる世帯アンケート調査]



[認知症の人と介護者の会アンケート調査]



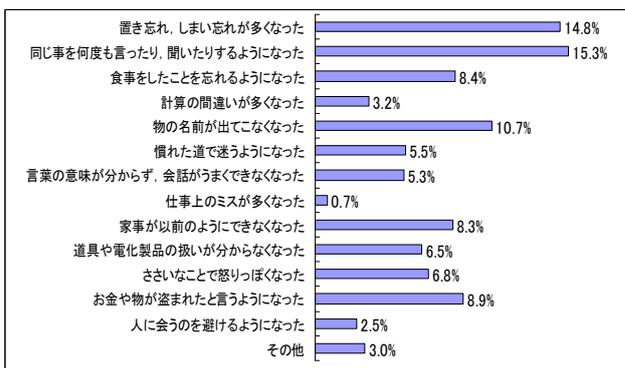
イ 認知症ではないかと気づいたきっかけ

- ・ 認知症ではないかと気づいたきっかけは

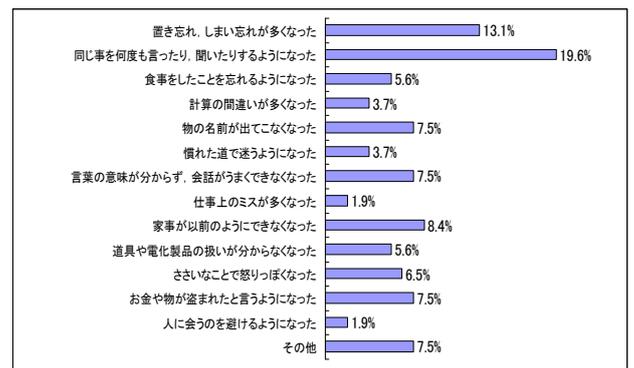
「同じ事を何度も言ったり、聞いたりするようになった」こと

○ 認知症ではないかと気付いた、あるいは不安に思うきっかけとなった主な変化

[高齢者のいる世帯アンケート調査]



[認知症の人と介護者の会アンケート調査]

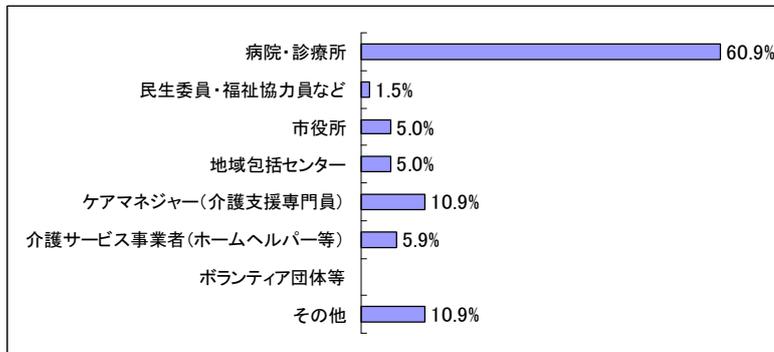


ウ 最初の相談・受診先等

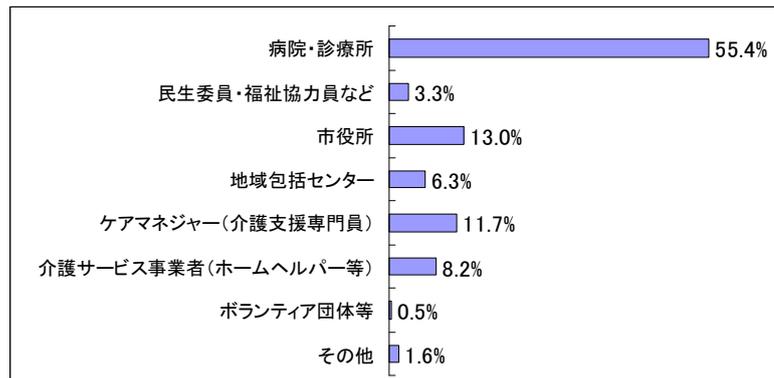
- ・ 半数以上の人が病院・診療所やケアマネジャー等に相談

○ 最初の相談・受診先

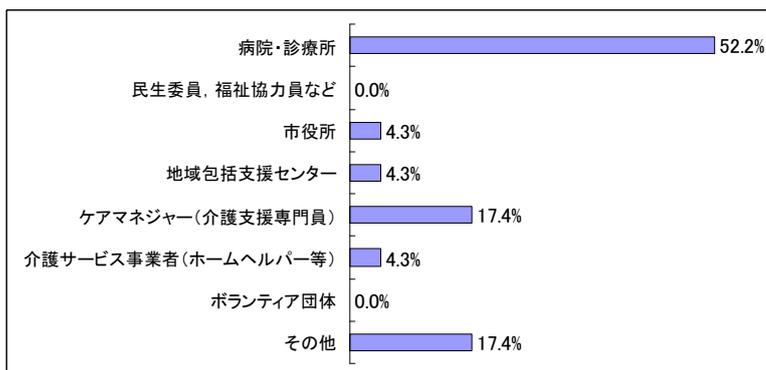
[高齢者のいる世帯アンケート調査]



[市民意識アンケート調査]



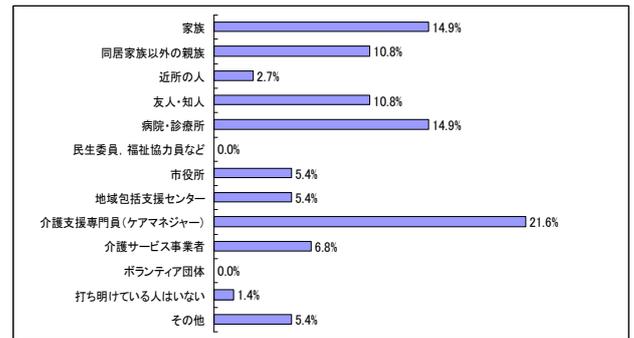
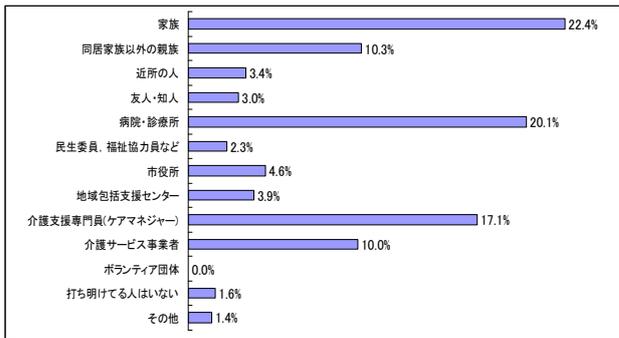
[認知症の人と介護者の会アンケート調査]



エ 認知症診断後の主な相談先について

- ・ 主な相談先は「家族」,「病院・診療所」,
「介護支援専門員（ケアマネジャー）」

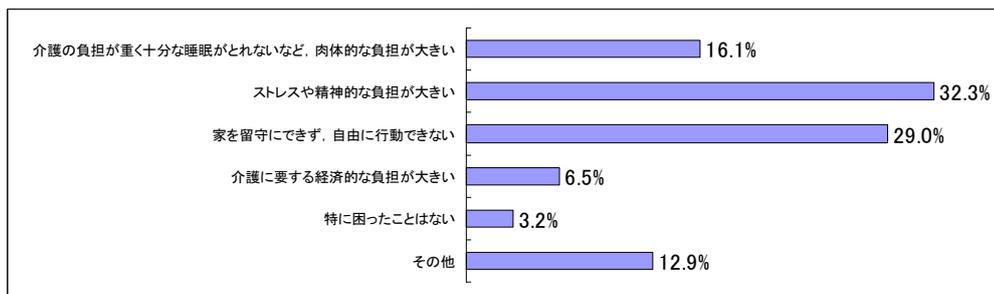
- 認知症診断後、認知症ご本人への必要な支援についての主な相談先
[高齢者のいる世帯アンケート調査] [認知症の人と介護者の会アンケート調査]



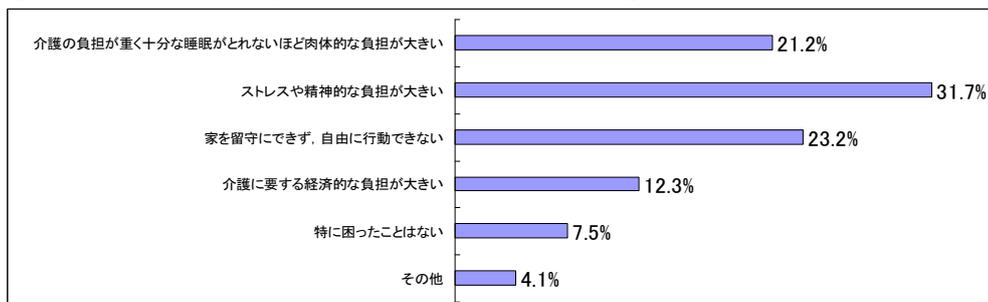
オ 認知症介護の負担

- ・ 認知症介護者の約半数は
ストレスや精神的・肉体的な負担が大きいと感じている

- 認知症介護の負担
[高齢者のいる世帯アンケート調査]



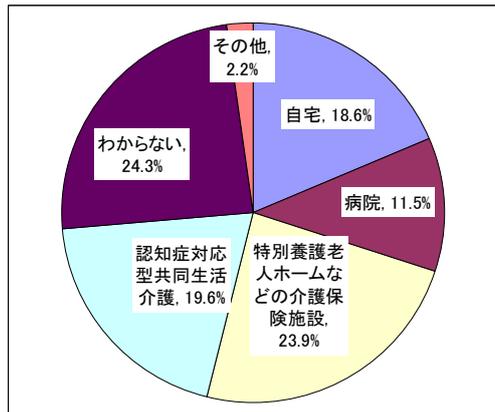
- [認知症の人と介護者の会アンケート調査]



カ 認知症になったときに介護を受けたい場所

- ・ 認知症になったときに介護を受けたい場所は、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設」、「認知症対応型共同生活介護」、「自宅」

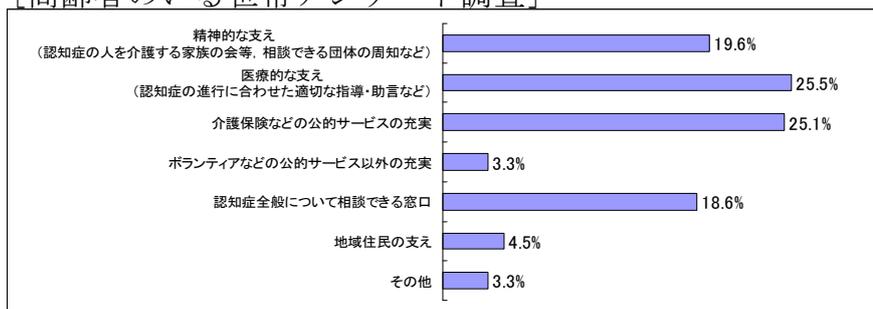
○ 認知症になったときに介護を受けたい場所
[市民意識アンケート調査]



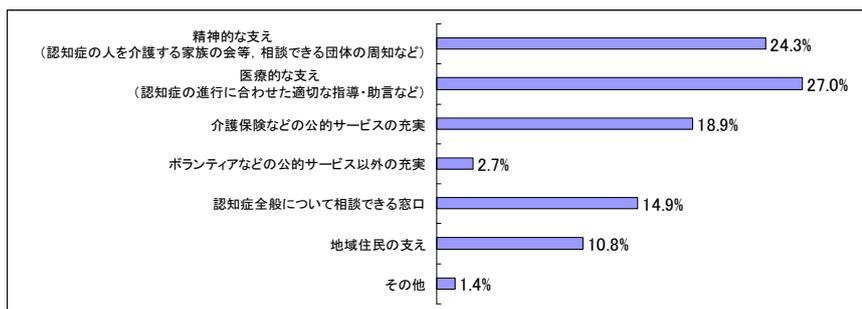
キ 認知症の本人や家族の支援について

- ・ 認知症の本人や家族の支援として、「医療的な支え」や「精神的な支え」、「介護保険などの公的サービスの充実」を必要としている

○ 認知症の本人や家族への支援
[高齢者のいる世帯アンケート調査]



[認知症の人と介護者の会アンケート調査]

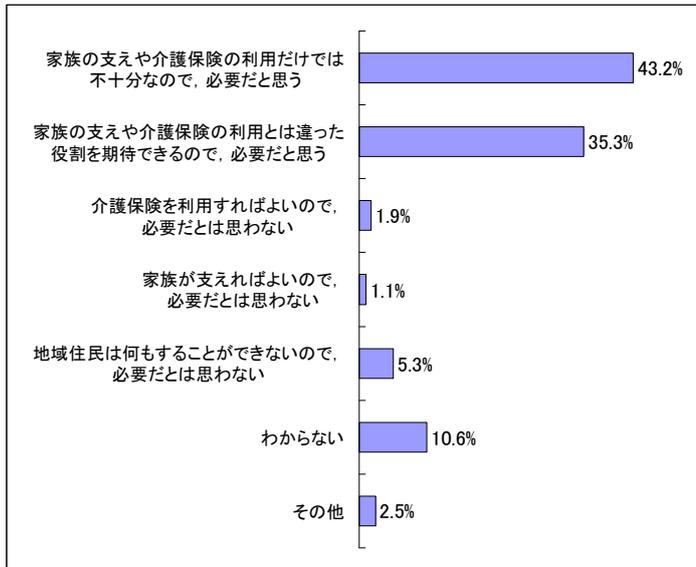


ク 地域住民の協力の必要性について

- ・ 約7割の人が、認知症高齢者が生活するうえで地域住民の協力は必要と思っている

○ 地域住民の協力の必要性

[市民意識アンケート調査]



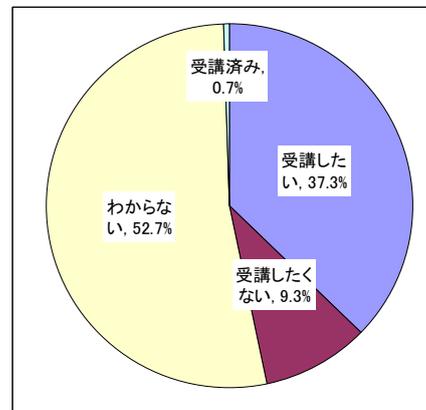
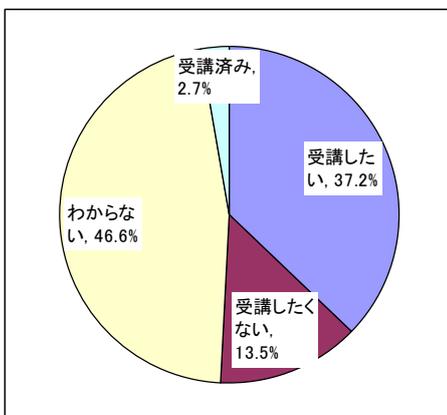
ケ 認知症サポーター養成講座の受講意向について

- ・ 認知症サポーター養成講座の受講希望者は約3割、
「わからない」との回答は約半数

○ 認知症サポーター養成講座の受講意向

[高齢者のいる世帯アンケート調査]

[市民意識アンケート調査]



コ 医療・介護・福祉の連携の必要性について

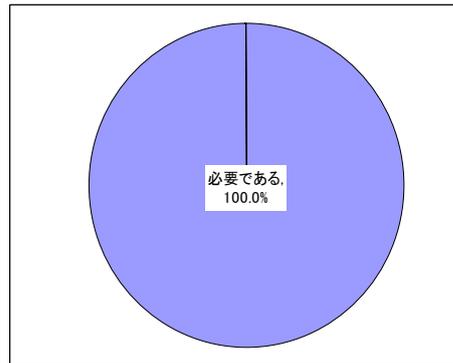
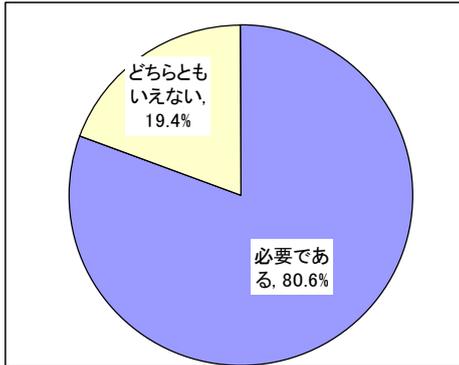
(ア) かかりつけ医との連携の必要性について

- ・ 介護支援事業者（ケアマネジャー）、地域包括支援センターともに
かかりつけ医との連携は必要であるとの回答が多い

○ かかりつけ医との連携の必要性

[介護支援事業者アンケート調査]

[地域包括支援センターアンケート調査]



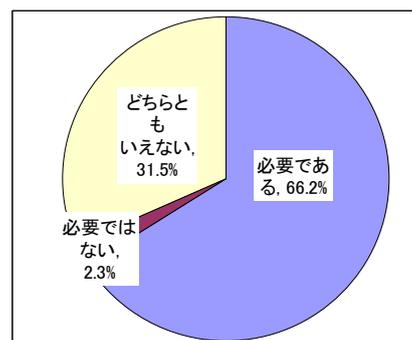
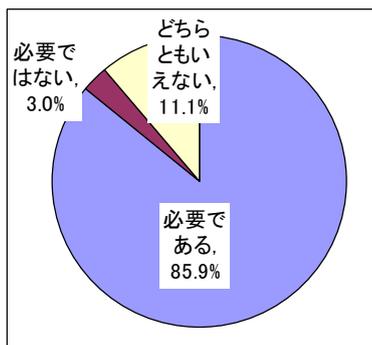
(イ) 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の必要性について

- ・ 医療機関、歯科診療機関、地域包括支援センターともに、
介護支援専門員との連携は必要であるとの回答が多い

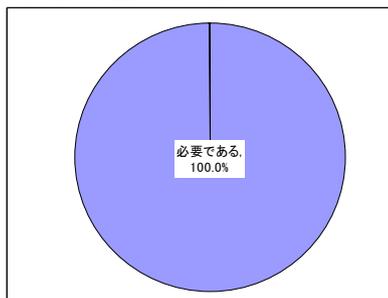
○ 介護支援専門員との連携の必要性

[医療機関アンケート調査]

[歯科診療機関アンケート調査]



[地域包括支援センターアンケート調査]

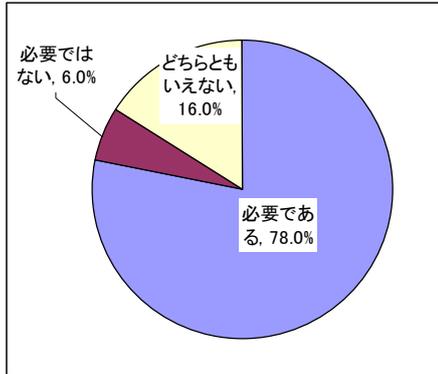


(ウ) 地域包括支援センターとの連携の必要性について

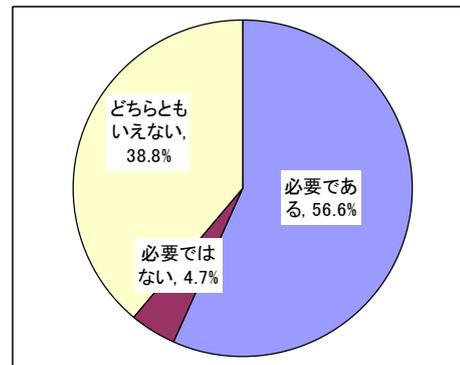
- ・ 医療機関，歯科診療機関，介護支援事業者（ケアマネジャー）ともに地域包括支援センターとの連携は必要であるとの回答が多い

○ 地域包括支援センターとの連携の必要性

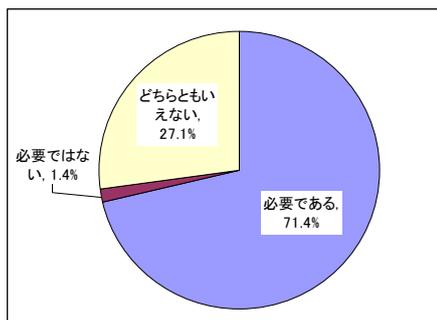
[医療機関アンケート調査]



[歯科診療機関アンケート調査]



[介護支援事業者アンケート調査]



カ 認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについて

- ・ 医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくりを期待

○ 今後、認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきこと

